

## アカマツ皆伐林におけるコスト分析結果について

県南広域振興局では、アカマツ林の皆伐5事例を対象に伐採、素材生産、運搬工程を分析し、素材生産販売のビジネスモデルの構築に取り組みましたので報告します。



集材した材をトラックに積込

調査分析の結果、

- ・ha当たりの蓄積については同林齢のスギより少ないものの搬出率はほぼ拮抗。
- ・いずれの事例もA材の生産は皆無。多くがパルプ材として販売されていることから販売単価はスギよりかなり安価。
- ・伐倒・集材工程はスギとほぼ拮抗。造材工程は枝払いでチェーンソーを利用

することから非常に工程が落ち、全体生産性は $3.1 \sim 4.8 \text{ m}^3/\text{人日}$ とスギ間伐並みの結果に。

このことから、運搬を含む全体コスト： $4,000 \text{ 円}/\text{m}^3$ 以下(全体生産性： $8.0 \text{ m}^3$ 超/人日、かつ搬出材積 $250 \text{ m}^3$ 超/カ所必要。)、かつ販売単価： $6,000 \text{ 円}/\text{m}^3$ 以上(A・B材比率：30%超必要。)の実現が「儲けが期待できるビジネス」の最低ラインであると判断されます。

なお、これを達成するには、

- ・1カ所当たり施行面積は最低 $1.0 \text{ ha}$ 以上
- ・伐倒・造材工程は最低 $10.0 \text{ m}^3/\text{人日}$ 超
- ・集材工程は最低 $20.0 \text{ m}^3/\text{人日}$ 超

が必要であると思われます。

また、上記モデルについては、震災からの復旧途上にある日本製紙(株)石巻工場のアカマツ材受け入れの再開が前提となることを申し添えます。